

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人 嘉祥福社会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県海部郡美和町大字ニッ寺字西高須賀2番地		
自己評価作成日	平成21年11月26日	評価結果市町村受理日	平成22年1月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375601016&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に利用者様の“その人らしさ”を念頭に、利用者様の立場になって考えるケアを変わらず取り組むよう努力している。利用者様にとって安心して暮らせ、また生き生きとした表情が見れるよう努め、利用者様が生活の主体となるよう「介助」でなく「援助」という視点で常にケアを行っている。また複合施設であるため、ADLの変化等にも柔軟な対応ができる。(入浴についての特浴の使用など。)医療面に関しても協力病院との連携もしっかり取れており、利用者様、ご家族も安心して利用できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、特別養護老人ホーム・ケアハウスの1階に併設している。ホームの庭や屋上には菜園があり、季節の野菜を作っている。共有スペースには、図書コーナーがあり利用者は自由に行き来ができる。カラオケ大会や、季節の大きな行事は全体で行うためにいろいろな利用者とも交流することが可能である。職員は、家庭的なのんびりした毎日を維持するために、職員の気持ちにゆとりを持った介護を心がけている。ケアハウスから入居した利用者から「初めは不安で仕方がなかったけれど、今はとても安心しています」という声を聞いた。その言葉通り、利用者の表情には不安はなく朗らかな笑顔で職員の心を和ませていた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームあま恵寿荘の職員の目標をして「その人らしさに共感し、地域の中で普通の生活を送って頂けるよう支援する」と掲げ理念は事業所の出入り口に掲示してありいつでも見ることができ、職員全員がその意義を共有している。	ホームの出入り口に理念を掲示している。職員はその人のペースに合わせた介護を常に考えており、理念の共有を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や広報等で行事等の地域活動の情報を得て参加できるものは参加している。	ホームの近隣は、畑や公園建設予定地に囲まれている。ホームでは、併設の特別養護老人ホームやデイサービスをご近所ととらえて、カラオケ大会・喫茶ルーム等のレクリエーションで交流している。	利用者の心を込めた手作り作品は、ホームの宝物であろう。利用者の作品やホームの存在を地域に紹介していくことが、ホームの役割とも考えられる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者への働きは、入居相談などや施設行事への参加を呼びかけている。また運営推進会議でも役場の方や民生委員等へ何かあれば連携がとれるような関係作りに努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では役場職員により地域の行事などの情報をいただき参加するよう努めている。また外部評価の結果等についても説明し、意見や質問等言える機会を作っている。	運営推進会議には、利用者家族・役場担当者・民生委員・職員が参加して情報交換を行っている。職員は外部評価結果を報告し、参加者との意見交換の議題として取り組んでいる。	参加メンバーを多数募ることで、参加者間の交流にもつながるであろう。今後は利用者も参加者に入り、ホーム独自の温かい運営推進会議の進行を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場へは日頃から足を運び、その都度担当者との対話や相談を行い、またできる限り運営推進会議に参加してもらい協力関係を築くようにしている。	事務所へ役場担当者が訪れることがあり、ホームあての書類の受取、情報交換を行っている。	町に唯一のグループホームは、地域の中では認知症ケアの先駆けである。役場との連携を図り、認知症ケアの専門家としての地域貢献を応援したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては行ってはいないも、言葉の抑制「ダメ」「待って」等に関するも使わないように職員同士お互い心がけている。また施錠に関しても夜間の防犯上の施錠以外行ってはいない。	ホーム内のすべての扉に日中施錠は行ってない。利用者は、法人施設共有スペースを歩き来して、喫茶や図書コーナーを自由に利用している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で高齢者虐待防止に努めており、研修などの参加で理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、研修等での参加での理解を深めている。また今年是人権擁護委員会の啓発活動を施設で行ってもらうなどしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には必ず利用者様にご家族に書面・口頭で説明を行い、質問、意見、苦情も常に受付十分に理解、納得してもらえるよう対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の申し出については外部(第三者による)の窓口も設置しており、玄関にも苦情受付についての掲示してある。また運営推進会議等でも意見が言える機会を設けている。	月に1度の個別の便りは、利用者の絵や写真を利用し個性豊かに仕上げている。また、職員全員が家族に同じ対応がとれるよう、ミーティングで情報を共有している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員の意見を直接聞くなどし、施設運営に反映させている。	定期的なミーティングを行い、職員が意見共有を行っている。職員の意見をまとめ、管理者への助言を求める体制が整っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの意見を尊重し、職員全体では週1回のミーティングなどでの話し合いの機会を設けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修等に参加するなどできる限り機会を設けるよう努めているが、なかなか職員全体とはいかず、その差は内部研修にて埋めるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修会等に参加して同業者との交流を図り、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の表情、言動には常に気を配りできる限り利用者様の居室への訪室回数を増やし、不安軽減に努めている。またケース記録とは別に詳細記録を記載しできるだけ早期に状態把握に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の申込みの際にもどのように困っているのか傾聴し、また入居後にはどのような要望があるか詳しく聞いている。また入居後の面会時には必ず声をかけ利用者様の状況をお伝えするよう努める。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援について併設施設相談員や、居宅ケアマネージャーと相談連携を図り対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様主体に生活を考え、料理等でも利用者様から教えてもらいながら共に行うようにしている。また四季折々の行事等についても昔の方法を利用者様に聞きながら行うようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には常に声をかけ信頼関係を大切に、ケアに対する説明、相談、報告を行い、共有していただけるように努めている。また毎月通信にて個々の報告も行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地が遠方の方などもおりすべての利用者様への支援は困難だが併設施設より入居された方などに対し、以前の入居者様との関係が途切れない様に努めている。	併設施ケアハウスの友人が訪ねてくることがあり、お互いが行き来できる環境が整っている。出身が遠方であるなどの事情で、馴染みの関係を継続している利用者は少ない。	昔のことを懐かしむことで、気持ちが落ち着くことも考えられる。利用者さんの大切な思い出を発掘する取り組みに期待したい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、家事等で自然と関わり合いができるよう職員が間に入り、随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され併設施設へ移られた入居者様やご家族へできる限り声をかけいつでも相談等に応じれるようフォロー支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に“その人らしさ”を念頭に一人一人の思いを尊重できるよう「待つ」ことを大切にしながら援助している。しかし、思いを尊重することとケアとの狭間で戸惑うことも多々ある。	職員は、日々の暮らしでつづやいた利用者の思いを受け止めて援助している。その一方で、利用者の希望をすべて受け入れることが最善なのかとケアの限界も感じている。	利用者を客観的角度で観察すれば、利用者の今まで見えなかった思いが見えるかもしれない。職員間で、利用者の意向を再確認することを見守りたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーやご家族へ情報を呼び掛け把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録は時間をおって記録しており、その都度心身状態の現状把握に努め、何か問題があった場合はミーティング等で話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当間での話し合いを行い、その後計画作成担当者を含め職員全体で話し合い(必要があればDr・Ns、ご家族への相談)、ご家族・本人への報告、相談といった流れの中で介護計画を作成している。	職員間でのケアカンファレンス後、家族へ相談している。ケース記録へ目標を記載し、記録の中から常に目標を確認することができるため、毎日モニタリングすることも可能である。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録等への記載や申し送り、ミーティングにより職員同士で情報を共有している。また毎月カンファレンスを行い、その都度配慮すべき事等について話し合い、ケース記録への記載もおこなっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の特養やデイサービスにて入浴を行ったりし、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議により民生委員や役場の職員と地域の情報の共有・交流ができ、消防については施設全体の防災訓練、救急救命訓練等の支援をいただいている。また学校とは施設への体験学習の場として協力している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について自由に選ぶことは説明しているが、要望として当施設の協力機関が多い。	提携医の往診が月に2度行われるため、医療について不安を抱える利用者はほとんどいない。利用者の中には提携医に絶大な信頼を置いている人もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設に勤務する看護師がグループホームの利用者様のことも気にかけていただいているため気軽に相談でき協力が得られる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは普段から利用者様の状態や介護の情報を提供し理解していただいている。またその他の医療機関についても入院時には介護情報をお渡しし入院中もC/W等と密に情報交換を行い関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関への相談は随時おこなっているがターミナルケアについては医師等の条件が満たせないため行えていない。ただ、重度化しても併設施設Ns、主治医と連携し、ご家族の要望にできる限り応じれるようその都度話し合い支援している。	面談時に利用者家族と、終末期のあり方や併設特別養護老人ホームとの連携について、最善の方向性を相談している。法人全体でのケアホームの役割を理解した上で、認知症専門ケアに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて救急救命やそれぞれの状況に応じた応急手当の方法について行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で防災訓練を行い、避難訓練では日中、夜間想定それぞれで実施しており、利用者にも参加していただいている。しかし運営推進会議の際に役場、民生委員と防災時に協力し行う意思表示は行うも具体的なことまで至っていない。	ホームを含む施設全体が、災害弱者受け入れ先に指定されている。年2回避難訓練を施設合同で行い、職員が協力し全利用者を守る取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対しては年長者として尊敬し、言葉かけや対応に対しても本人の気持ちを優先しながら行い、常に職員間でも注意するように心がけている。記録物に関しても職員間でお互いに注意するよう努めている。	ケース記録へ記入時、他の利用者の氏名はイニシャルにし、容易に特定されないよう取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をできる限り尊重し希望に応じれるように努めているが入浴拒否等利用者様の想いとケアの相違が生まれてしまうこともある。しかしできる限り表情、言動の少しの変化でも気にとめ想いを汲みとめるよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切にするよう心がけているが勤務体制により困難な場合もある。ただ、基本的には食事以外は個々の生活のペースを尊重している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容という形での支援は行われているが利用者様の希望の理美容・床屋等について特別なため他の所では行っていない。服装については選べる方には選んでいただき着用していただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては利用者と職員と一緒に料理・準備を行うようにしているが料理が難しい場合はつけ分けや後片付け等は利用者様それぞれの役割として定着している。また、利用者様の各誕生日には好みのものを提供できるようにしている。	朝・昼・夜の食事を介護職員が手作りすることで、ホーム内に温かい香りが漂い、より家庭的な雰囲気作りが可能となった。盛り付けや食器洗いなど、利用者が参加することも増え、毎日に活気を与えている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日記録をし把握に努めている。また、摂取量が少ない方は好みの調味料に変えたり、メニュー変更を行うなどに対応している。水分摂取に関しても極端に少ない方は摂取表にて経過をみて、本人の好む水分を促すなど配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に起床時・就寝時に自らできる方には声掛けをし、また介助の必要な方にもできる限り本人に行ってもらえるよう補助する形で、最終確認を職員が行うようにしている。必要時には併設施設にみえる歯科医の診察がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りオムツ内での排泄がないよう、食前の声掛けはするが利用者の様子を見ながら行うようにはしている。また、各利用者の排泄チェック表をつけ尿量、排便回数、パターン等の把握に努めている。	各利用者の排泄を把握することで、さりげない排泄介助のタイミングをつかむことができている。おむつによる排泄の苦痛を理解し、トイレへの誘導を前提としたケアに取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄パターン、回数等のチェックをしすぐに下剤等薬に頼るのではなく水分摂取を多くすすめたり腹部マッサージを行うなど便通を促すようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については希望があればいつでも入浴できるようにはなっているもほとんどは職員からの声掛けによる入浴になってしまっている。併設施設の特浴にて入浴される方もあり柔軟な対応をとっている。	介護度の高い利用者には、併設施設の特別浴での入浴が可能である。入浴は利用者が希望すればいつでも入浴できる体制が整っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間については職員からの強制にせず個々のペースを尊重している。また日中についても10時・15時とお茶の準備はするも自由に休憩を取ってもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	回診時に処方された内服薬・外用薬については必ずDr・Nsに確認し記録している。また内服薬一覧についても介護職員室に掲示している。服薬についてはそれぞれの状態に合わせ、確実に服薬できるよう必ず飲み終わりの確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者様ごとに洗濯物干しや洗濯物たたみ、皿洗い等役割ができています。またカラオケや月に一回抹茶を点てるなども利用者様の楽しみの一つになっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期にはすぐ近くの公園へ散歩に行ったり、又花見や他市町村の催しものなどの外出支援は行っているがなかなか利用者一人一人の希望に沿った外出は行えていない。	施設全体の敷地は広く、天気の良い日には庭や屋上に出ることも可能である。介護度の高い利用者も多く、体調を考慮して外出することが少なくなっている。	仲の良い人との外出は、気分転換や生きがいにつながるであろう。少人数で外出するなど、個別の対応で利用者のニーズに応えていくことを応援したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持、管理することが困難な利用者様については職員が管理しているも、財布を所持し、売店等で自由に買い物をしている利用者様もいる。また管理ができなくとも売店等に行く際に財布を渡し買ってもらう方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については公衆電話ではあるが希望時には使える環境はある。手紙についても希望があればその都度対応できるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節にあわせた手づくりのカレンダーをかけたたり花を飾ったりしている。また食堂・廊下には毎年の行事の写真を飾って思い出の共有ができるようにしている。また何か作業を行う際にはできる限り大きな音を出すことのないよう心がけている。	廊下には、ホームでの行事や日常の写真が飾られている。温かく笑顔あふれる写真の数々は、ホームがやすらぎの場であることを伝えている。またホームは、回廊式の間取りであることから常に人の気配を感じ、目が行き届きやすい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に食事のテーブルとは別にソファと椅子を二ヶ所に置き、できるだけ座る場所が固定しないよう努めている。また廊下に椅子を何か所か置くなどして、利用者様にとって不安を感じた時に気持ちを落ち着かせる場所ともなっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族へなじみのものの大切さをお話しし、今まで使っていた家具を持ち込まれている方もおり、また本人と一緒に配置を行ったりしている。	利用者は、自宅から使い慣れたものを持参できる。若いころの写真や家族の写真を飾って、自分だけの部屋を築いている。これまでの軌跡とホームでの思い出が織り交ざった、利用者の居室を見ることができた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの張り紙や場所が分かりづらい利用者様の居室には立体的な大きな表札で場所を分かりやすくするなど混乱を防ぐ努力をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	グループホームに住んでからの思い出の共有等はできているが、若い頃、昔の思い出のものがあまりない。	若い頃の思い出を懐かしく感じれるような環境づくりに取り組む。	ご家族より昔の写真を借りたりし、また何か昔の使っていた物など思い出のものが居室等に飾れるようにする。 実家が遠方のかたにはその土地を思い出せるような写真や雑誌等提供するなど工夫する。	6ヶ月
2	23	利用者の想いとケアとの狭間で最善策が見つからず職員間でずれもでてる。	利用者それぞれの思いの共有が客観的にできる仕組みをつくる。	定期的にそれぞれの利用者の状況が項目ごと(排泄・入浴etc)に分かれるよう表作成等を行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。